はじめに

江戸時代の都市では、園芸が盛んでした。庭園での地植えから鉢植えへとうつり変わることによって、園芸は庶民に身近なものになりました。こうした中で、朝顔は庶民に親しまれる花となります。さらに18世紀後半には、突然変異で生まれた奇抜な変種(奇品)を楽しむ文化が生まれました。そして、丸咲の原種に近い朝顔の中から、葉も花の形も変化に富んだ、いわゆる変化朝顔が選抜され、育成されるようになったのです。

変化朝顔には、近世から近代にかけて大きく分けて3回の流行がありました。第一次ブームは、文化・文政期(1810年代～1830年頃)で、その作り手は文人が中心でした。第二次ブームは、嘉永・安政期(1848年～1860年頃)で、植木屋の活躍などで近郊都市にも作り手があらわれ、より複雑な変化が追求されるようになります。さらに明治・大正期に第三次ブームを迎え、明治20～30年代には各地で同好会が誕生しました。

当館では、世界でも例のないこの特異な朝顔の世界に着目し、歴史学と自然科学(遺伝学)双方の視点から、くらしの植物苑において特別企画『伝統の朝顔』を開催してきました。1999年から開始したこの展示を通じ、がく片のみの花「無弁花」や、新たな孔雀変異の発見など、いくつかの新しい発見もありました。また、朝顔にかかわる歴史資料の収集にもつとめてまいりました。そして今回迎えた10回目の展示にちなみ、変化朝顔の歴史資料をご紹介する図録を新たに刊行することにいたしました。

今回とりあげる『あさかほ叢』は、江戸で最初に刊行された“朝顔図譜”であり、変化朝顔の歴史を考えるうえで、重要な資料です。また、公的機関であっても所蔵する施設が少ないことから稀少本といえます。そこで、本図録では、すべての内容をカラー図版で紹介し、歴史学と自然科学双方の分野からの解読と解説を掲載いたしました。朝顔愛好家の方はもちろんのこと、園芸史・文化史・遺伝学などの研究の一助にもなれば、幸いです。

最後に、本図録の刊行にあたり、ご協力くださった方々や、多くの機関や団体に対し、深く感謝します。

くらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」
『伝統の朝顔』展示プロジェクト委員会

凡　例

1. 本書は、2008年7月29日～9月7日までの間、国立歴史民俗博物館がくらしの植物苑で開催する「くらしの植物苑特別企画『伝統の朝顔』」及び、同時に開催する第3展示室(近世)ミニ企画展示「もの」から見る近世・『伝統の朝顔』に関連する資料図録である。
2. 本書の執筆は、展示プロジェクト委員の仁田坂英二、平野恵、岩淵令治、辻圭子が行い、執筆分担は各項目に明示した。なお、編集は主に岩淵が行った。
3. 本書に掲載した史料写真は主に勝田徹(当館資料係記録担当専門職員)が撮影を行った。その他の写真の撮影者はそれぞれの写真に明示した。
4. 本図録を作成するにあたり、以下の方々のご協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略・五十音順)
   市来弘志、井上攻、川端元気、小林紀子、斉藤司、福田美波、水品洋介、横浜市歴史博物館、文京ふるさと歴史館

目　次

はじめに……2
凡　例……2
目　次……2
変化朝顔ブームのはじまり……3
変化朝顔とは～変化とその仕組み……5
図版/『あさかほ叢』全文と翻刻……8
『あさかほ叢』対訳……32
『あさかほ叢』にみる現代の朝顔……34
『あさかほ叢』の朝顔……38
多色刷り図譜時代の幕開け
～文化・文政期の“朝顔図譜”から見た文化史～……40